

(2) 図書館のあり方について

1. 高浜市公共施設総合管理計画より ～抜粋～

◎課題

図書館の蔵書数は、書架等の状況から約 20 万冊で推移していくと想定され、貸出の多くは市立図書館本館からの貸出が多い傾向です。現在の図書の利用状況、施設の立地環境から液状化の危険性や津波による被害も想定されることから、複合化も視野に入れた新たな図書館のあり方の検討を行う必要があります。

- ・今の施設は老朽化が進んでいる。
- ・堤外地にあるため、同じ施設を改修して使うことは考えておらず、市内の他の公共施設に機能移転する方針。
- ・機能移転をするにも、どのような機能を持たせるかにより、どんな施設に移転すべきか、必要な広さ等が変わってくる。
- ・高浜市として持つべき図書館の機能、あり方について。

◎改善案

- ◆ 機能の複合化、近隣自治体との連携・相互利用の拡大。
- ◆ ネットワークシステム等による効率化。

◎改善方策

- 図書館は、現敷地から機能移転させ、他の施設との複合を図る。
- 専門書は市外の図書館と相互利用するなど、近隣自治体との連携・相互利用の拡大による効率化を図る。
- 図書館と学校図書室をネットワーク化し、情報化等による効率化を図る。

2. 現状と課題

- 当初計画では、市内の学校図書室をネットワーク化することで図書館機能を維持する考え方で、学校図書室を拡充することを考えており、高浜小学校等整備事業における複合化施設に機能移転する予定であった。
- しかし、平成26年度に実施したワークショップでの意見では、開架書庫、閉架書庫等、図書館で保有する蔵書数を考慮すると、学校敷地内でのスペース確保が困難であり、既存の図書館のスペースを圧縮することを考慮しても、機能確保に必要なスペース確保が困難であるとされた。
- 市図書館の今後のあり方については、今後の図書館のあり方を検討する中で判断することとなり、高浜小学校等整備事業から対象外となった。
- 図書館ボランティアを中心に話し合いをし、機能移転の方向性は出されている。
- 図書館ボランティアからは、「移転先は街の中心部である「いきいき広場」がよい」という意見が出ている。また、「いきいき広場」に移転することで、未来を担う子どもたちや保護者世代へのアプローチなど、複合化による相乗効果についても共有されている。

3. 論点

- 図書館本来の役割を踏まえた上で、図書館ボランティアからの意見や高浜市民の近隣の図書館の利用状況などから、高浜市として持つべき図書館の機能、あり方をどのように考えたらよいか。
- 蔵書の問題等を踏まえ、移転先をどのように検討したらよいか。